

[教育実践報告]

2年次基礎看護学実習のルーブリック使用後における 教員の意見の分析

徳永 郁子* 原口 真由美 岩村 純子
井上 加奈子 荒尾 博美

Analysis of teachers' opinions after the use of rubrics for 2nd year basic nursing practicum.

Ikuko TOKUNAGA, Mayumi HARAGUCHI, Junko IWAMURA,
Kanakano INOUE, Hiromi ARAO

要旨

本報告は、2020年度のA大学基礎看護学実習Ⅱを担当した13名の教員が評価に使用したルーブリックに対する意見を分析し、次年度以降のルーブリックの課題を検討することを目的としたものである。A大学看護学科2年次生が履修する基礎看護学実習Ⅱでは2020年度に従来の評価方法からルーブリックへ変更した。実習終了後、評価を終えた実習担当教員へルーブリックに対する意見を無記名・自由記述式で依頼し、得られた評価項目ごとの記述内容からルーブリックでの評価に対する課題をカテゴリー化した。その結果、①「評価の一貫性」、②「学習効果の促進」の2つのカテゴリーに分類された。更に①では「表現の不足」「評価基準の解釈による差異」の2つのサブカテゴリー、②では「病態や経過の理解に必要な項目設定」「フィードバックのための詳細な項目設定」「学生のルーブリック活用の促し」「人としての尊厳や権利の尊重の項目設定」の4つのサブカテゴリーが抽出された。

今後、基礎看護学実習Ⅱで学生が活用するルーブリックの信頼性・整合性を高める必要がある。また、教員、学生、実習指導者が到達目標や評価基準に対して共通認識を持てるよう、ルーブリックに関する事前オリエンテーションの内容を検討する必要がある。

キーワード：ルーブリック，基礎看護学実習，評価

I 緒言

1. 看護学実習へのルーブリック活用の意義

臨地における看護学実習は看護を実践する能力を養うことを目的とした学習活動である。看護学生は臨地実習において思考や判断力、関心・意欲・態度、技能等が求められ、将来看護師として働く能力を養うためには、学習段階に応じた知識や技術を身に付けておく必要がある。看護学実習はパフォーマンスであり、ルーブリックを評価に活用することで学生

と教員は到達目標等に対する認識を共有し、複数の教員による評価に対してよりメリットがあると考えられ、看護教育においては多くの大学、専門学校が近年ルーブリックを取り入れている^{1) 2) 3)}。講義とは違い、実習で看護学生は現実の状況における真正性の高い課題に取り組むため、ルーブリックによって評価することが適している⁴⁾。ルーブリックはパフォーマンスのように達成水準が明確に提示しにくい項目の評価に適したものとされ、思考力や、判断力、表現力等の達成度を表現した基準を記述するこ

とで、学修の到達目標を標準化・可視化し、学修評価の公平さが期待されている⁵⁾。ルーブリックによって実習の場で求められる能力が事前に示されることで、学生のみでなく実習指導者や教員も学生の到達目標に対する共通した認識を持つことができ、学修成果をもとにした学生指導がルーブリック導入の意義とされる⁶⁾。

2012年に公表された中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学～」では、学士教育におけるアクティブラーニングの推奨が示されている⁷⁾。A大学は教育目標を踏まえたディプロマポリシーと共に、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーとの整合を踏まえ、2年次は特に探求心を持って自己研鑽する態度を身につけるためにアクティブラーニングが促されることを求められている。

2. 教育実践の実際

学生は4年間の中で、1, 2年次に基礎、3年次に8領域（小児, 母性, 精神, 在宅, 成人I, 成人II）、4年次に総合の3種類の実習を行う。基礎看護実習IIは1年次の基礎看護実習Iに続く2回目の臨地実習で、学生は看護が行われている場に身を置き看護を体験することで、看護の基礎となる思考・技術・知識を学ぶ実習である。2020年度の実習方法を以下に示す。

1) 実習方法

- ①実習単位：基礎看護実習II 2単位（90時間）
- ②実習場所：6施設23病棟
- ③実習学生：2年次学生108名
- ④実習時期：2020年9月 2週間
- ⑤一般目標（GIO）と個別到達目標（SBO）

一般目標（GIO）

コミュニケーションを活用し、対象となる人との信頼関係を築き、情報収集をすることができる。また、その人にとって必要な看護援助を計画し、技術を活用し実施・評価するという一連の過程をとおして、その人の健康状態が望ましい方向にいくための援助をどのようにして導きだしていくのか学ぶ。また、多様な人々と連携をとりながら看護師としての基本的な姿勢を身につける。

個別到達目標（SBO）

1. 看護の対象となる人と意図的なコミュニ

ケーションをとることができる。

2. その人はどのような病気で、どのような経過をたどり、現在どのような生活を過ごしているのかを捉えることができる。
3. その援助がなぜその人にとって必要なのか考えることができる。
4. その人にあった援助計画を立案することができる。
5. その人の反応をみながら実施することができる。
6. 実践した援助がその人に適切であったかを援助の目標に照らし合わせて振り返り、明日の計画に活かすことができる。
7. 実習グループメンバー・看護師及び教員と連絡・報告・相談・確認ができる。
8. 看護の対象となる人とのかかわり、および多職種の中での看護師の連携をとおして看護とは何かについて考えることができる。
9. 自己の看護実践を振り返り、今後の課題を述べることができる。
10. 看護の対象となる人を尊重し、責任ある態度と行動の重要性がわかる。

⑥主な実習内容

病院・病棟オリエンテーション、看護師に同行し援助の見学と参加、情報収集、看護師とともに受持ち患者への援助、身体面を中心に患者紹介（発表）、援助計画の立案（発表）、カンファレンス等。

⑦評価及び実習科目単位認定の方法

目標の達成度、実習記録、出席状況などによって評価する。

単位認定は、出席時間と実習内容の到達レベルにより行う。

このように、学生は臨地実習において思考や判断力、表現力、関心、意欲、態度、技能等が求められる。実習の評価についてA大学では、2019年度までは目標毎の5段階評価（資料1）を行っていたが、2020年度からは、ルーブリックを作成し活用を開始した。

3. ルーブリック作成の経緯

1) 2019年度以前の基礎看護実習評価IIの課題

A大学で2019年度まで使用していた基礎看護実

習Ⅱの評価表(資料1)は、10の個別到達目標に対し、細項目として18項目設定されていた。各細項目に対し、5段階(5:「一人でできた」、4:「少しの指導があればできた」、3:「指導があればできた」、2:「指導があっても少ししかできなかった」、1:「指導があってもできなかった」)による評価方法で、実習期間内の学生のパフォーマンスと記録物により評価されていた。また評価には、教育経験や臨床経験など多様な背景をもつ教員、看護師が関わっており、この評価方法では、それぞれの価値観が大きく影響することが考えられた。実際、この5段階評価について、岩村ら⁸⁾は、同事例を使った教員間の評価でも、評価のばらつき、評価の背景にある各々の評価基準の捉え方の違いを明らかにしている。これら評価の公平性のための標準化・可視化した基準の設定は、喫緊の課題と言える。

またアクティブラーニングを促進するにあたって、5段階評価では、パフォーマンスの質の評価に不向きと考えられる。このことから、より効果的な評価と自己研鑽について意識したルーブリック作成を考慮する必要があった。

2) 2020年度版ルーブリックの作成と実習の評価

基礎看護実習Ⅱの科目責任者はルーブリック作成準備のため、実習におけるパフォーマンス評価とルーブリックの研修会に参加し、ルーブリックの基盤となる案を作成後、基礎看護領域を教育担当としている専任教員6名で内容の検討を重ねた。実習で学生が求められている事を明確に理解し、目標を到達するためには何をすればよいのか、また、教員が出来るだけ公平に評価でき、指導にも活かすことができる評価基準について、何度も意見交換し修正を繰り返した。実習の個別到達目標1~10を評価の観点とし、合計20の細項目を設定し、それぞれの評価基準の評価レベルはA=よくできた、B=できた、C=努力が必要、とした。配点は各細項目3~8点を配分した。評価レベルを3段階にしたのは、ルーブリックの作成は今回が初めてで、3つの尺度は学生にとって理解しやすく、学ぶ効果を高めるには望ましい⁹⁾という観点からであった。

作成したルーブリック(資料2)は2020年度基礎看護実習Ⅱで実習指導を担当する教員が学生の指導と評価を行う目的で活用した。実習2か月前に教員向けのオリエンテーションを行い、学科内で準備した資料を提示し、ルーブリックの特徴と評価の方法

について説明した。ルーブリックに変更した経緯を説明し、実習中の指導への活用と実習後の評価を依頼した。不明な点があれば個別に対応することを伝えた。

Ⅱ. 目的

2020年度の基礎看護実習Ⅱで使用したルーブリックに対する教員の意見を分析し、次年度以降の実習評価に向けたルーブリックの課題を明らかにする。

Ⅲ. 方法

1. 調査対象者

2020年度基礎看護実習Ⅱで学生指導にかかわり、学生の評価を行った実習担当

教員(専任・臨時教員を含む)17名

2. 調査時期

2021年1月。2020年度基礎看護学実習Ⅱの成績確定後。

3. 調査内容

2020年度ルーブリックについて、評価しにくかった箇所や疑問に思ったこと、ルーブリックを使用し、その意見(活用の工夫や改善点など)、その他自由意見とした。

4. 調査方法

2020年度ルーブリックを配布し、そこに直接赤または青で自由に書き込むか、パソコンの文書作成ソフトを用いて自由に記述し、提出してもらった。回答は無記名とした。

5. 分析方法

自由記述式質問から得られたデータは、評価項目ごとに記述内容をデータとして入力し、一覧表を作成したあと、ルーブリックでの評価に対する効果と課題を抽出し、類似性のあるものをまとめ、カテゴリーに分類した。更に2名以上の共同研究者でカテゴリー内をそれぞれ比較し、分析の妥当性に合意が得られるまで検討した。

6. 倫理的配慮

研究対象者には、研究の趣旨を口頭で説明し、研究協力は自由意思を尊重し、無記名の自由記述式質

問紙の提出をもって同意とみなした。調査・分析や論文にする際には個人が特定されないこと、回答の拒否・回答の中断があっても不利益は生じないことを説明した。また、データは研究目的以外には使用せず、保管・管理については個人情報保護のため、研究専用のUSBを使用し、質問紙やデータは研究室内の鍵付きキャビネットに保管した。

IV. 結果

1. 対象者

基礎看護実習Ⅱを担当した教員17名のうち13名から回答が得られた。回答率76.4%であった。

2. 意見の内容

分析の結果、＜評価の一貫性＞と＜学習効果の促進＞の2つの大カテゴリー、7つのサブカテゴリーが抽出された(表1)。

1) 評価の一貫性

教員が評価を迷う理由として[表現の不足]、[評価基準の解釈による判断の差異]の2つのサブカテゴリーが明らかになった。

(1) 表現の不足

評価基準にある“基本的”、“適宜”とは具体的にはどのようなことか、また、どのような状態で基本的コミュニケーションがとれていると評価できるのか判断に困った等、用いられている単語の意味について評価者に分かるための対策を求められた。目標に対する評価のポイントで表現されている文言の不足や、説明できれば実施したことになるのか、といった評価のレベルに表現の曖昧さといった表現の不足が評価過程への影響を及ぼしたようであった。

(2) 評価基準の解釈による判断の差異

評価のレベルA～Cに対する難易度についての解釈の差異があり、例えば、A「その人に合ったコミュニケーションの方法で会話できる」、B「その人に合うようにコミュニケーションの方法を工夫できる」とあり、Bのほうがより難しいのではないかと解釈されていた。この他にも評価の観点では、それぞれの評価レベルにおいてのチェック項目(診断名・病態と症状・治療・病気が発症した原因・病気によって現れている症状・病気や治療にともなう日常生活の変化など)の情報が、カルテの記載内容が乏しく十分に得られない状況であった際の判断に困ったことや、教員自身の解釈で評価をしなければ

ならなかったこと、評価の基準となるものが統一出来ていなかったことに対する意見があった。その他にも記録用紙やルーブリックの評価レベルに記載されている内容によって評価しにくいと感じていた状況が明らかになった。

2) 学習効果の促進

記述内容から、[病態や経過の理解に必要な項目設定]、[フィードバックのための詳細な項目設定]、[学生のルーブリック活用の促し]、[人としての尊厳や権利の尊重の項目設定]の4つのサブカテゴリーが明らかになった。

(1) 病態や経過の理解に必要な項目設定

情報を統合し患者の全体像をとらえるために作成する関連図の内容に関することをルーブリックに加えるべきではないかという意見や、疾患に留まらず、患者の背景を捉えているかを評価するための文言を追加する必要性が意見として出された。

(2) フィードバックのための詳細な項目設定

基本になる知識である解剖生理学や病態の知識に関しては、より具体的なフィードバックのためには詳細な基準設定が必要との意見が出された。

(3) 学生のルーブリック活用の促し

より多くの時間をかけ、評価表をもとに目標達成に向けた指導をすべきであったと、ルーブリックを実習期間中の学生の意識付けのために日々活用することについて振り返りがあった。

(4) 人としての尊厳や権利の尊重の項目設定

基礎看護実習であることを踏まえ、看護上の基本となる倫理について、人としての尊厳や権利の尊重につながることを意識できたかどうか確認するための項目をルーブリックの中にも明示して欲しいという意見が出されていた。

V. 考察

1. 2020年度ルーブリックの課題

ルーブリックを使用した教員の意見から次のような課題が明らかとなった。まず、評価基準となる評価レベルの文言の曖昧さや評価のポイントとなる文言の不足、解釈の違いによる成績評価の差異が生じていることが窺われた。これはルーブリック導入にあたって期待された成績評価の公平性と客観性という点で課題であることが言える。また文言の曖昧さやポイントとなる文言の不足は、学生・教員・実習

表 1 2020年度ルーブリックに対する教員の意見

カテゴリー	サブカテゴリー	自由記述から抽出したデータ
I. 評価の一貫性	1. 表現の不足	学習目標 1 - C:「基本的なコミュニケーションの方法で会話できる」の“基本的コミュニケーション”とは具体的にはどのようなことか?
		学習目標 4 - B:援助の目標・留意点を設定し, 計画立案ができる(が個別性に関する記載がない)。(1)の文言を追加した方がよい。(2)
		学習目標 5 - A「援助の目標を達成するためにどのように実施したかを客観的に説明できる」とは, その人の反応に基づいてということか?
		学習目標 6 - C:「技術の原則に基づいて実施できたかを評価できる」の部分は, 文字を変えるか「評価できる」を削除してはどうか。
		学習目標 7 - A:「適宜, 主体的に, 実習グループメンバー, 看護師, 教員と連絡・報告・相談確認ができる」の“適宜”とは例えばどのような時のことか?
	2. 評価基準の解釈による判断の差異	学習目標 1 の評価レベル A と B の差がわかりにくい。「その人に合うようにコミュニケーションの方法を工夫出来たらならば, 会話できたのではないかと思う。
		学習目標 2 - A「診断名」～「病気や症状に対する治療」の部分は, 病態の理解が十分でないのにカルテの看護師のアナムネからのみで(簡略化された内容)理解している場合「説明できる」としてよいのか?
		学習目標 3:援助の必要性を記載する記録用紙がない為, 評価ポイントで挙げられている項目だけでは, 本当に必要性がわかっているのか判断できない。また, 記載されている評価ポイントでチェックするため2の評価内容と重なってしまう。
		学習目標 4 の“その人にあった援助計画を立案することができる”に関して, 援助目標が適切に立てられなかった時の評価が難しかった。
		学習目標 9 - A:「その人に行った援助は看護であったか論理的に, 文献を用いて説明できる」となっている。看護の視点「看護とは」に関して, 「考えることができる」のであれば目標を達成したと評価した。
自分で判断基準を設けて評価したが, ある程度統一した方がよいのではないか。		
評価レベルの違い通り, 評価できたかわからない。		
II. 学習効果の促進	1. 病態や経過の理解に必要な項目設定	学習目標 2:入院の目的・現病歴・現在の状況(の文言を追加)説明できるとした方がよい
		学習目標 2:病気や症状に対する治療・「介入」の文言を追加した方がよい。
		学習目標 2:学生が情報統合について思考するために「病態関連図を作成し」の文言を追加し, 下記のすべての項目の関連を説明できるとした方がよい。
		学習目標 6「援助の目的の達成度とその根拠を説明し, 今後どのようにすることがより良い援助につながるか説明できる」の到達には病態や経過の理解が必要となるため学習目標 2「生命徴候の変化を説明できる」以外にも項目を追加した方がよい。(2)
	2. フィードバックのための詳細な項目設定	基本になる知識である解剖生理学や病態の知識については質を求める方がその後の振り返りやどのように対処すればよいかもう少し理解が深まっていくかと考える。質の評価が難しい。
	3. 学生のルーブリック活用の促し	現場指導教員が目標達成についてもっと時間を取りながら評価表をもとに指導すべきであったと反省している。(学習目標に沿って詳細でなくても, 評価表も活用しながら, という意味)
	4. 人としての尊厳や権利の尊重の項目設定	人としての尊厳や権利の尊重につながる?これを意識できたかどうかの項目が欲しい。
		「人間としての尊厳・権利」(看護師の倫理綱領条文1)を基礎看護だからこそ明示して欲しい。

指導者ともに、到達レベルの不明瞭さにつながり、教員や指導者においては、指導の在り方に影響を与えると推察される。評価基準は教員・学生双方からの分析をすることで記述される内容や表現の明確化などにより、学生と到達目標の認識の誤差をより無くすことにもつながる¹⁰⁾が、本研究ではそれがなされていないため、今後評価基準の表現の明確さと充実をはかるために更なる分析が必要である。

さらにループリックによって目標の可視化が期待されるが、課題として、評価基準を示す内容の具体性の検討が挙げられた。ループリックの文言について、項目によっては具体化することの難しさがあるものと、抽象的表現であることで評価に差異が生じるなど、検討を要す部分であった。カテゴリー「学習効果の促進」では、病態等の知識の理解や対象となる人の理解促進のため、フィードバックを目的とした、より具体的な基準設定の必要性が明らかとなった。フィードバックを効果的に行うことでループリックの有効性は上がる¹¹⁾。また、カテゴリー「評価の一貫性」では、コミュニケーションの観点など、抽象的表現に対する評価基準の曖昧さが指摘された。しかし、コミュニケーションは臨地実習において、対象となる人の疾病や状況にも大きく影響を受けるため、個別性も高く、コミュニケーション能力の評価基準の幅を狭く設定するのは難しい。久野ら¹²⁾も、学生と教員にとって基準をより明瞭にすることは重要であるが、具体的な記述には無理が生じる場合があると指摘する。このように抽象度は様々であることから、本質的な部分を教員間で事前のオリエンテーションで共通理解をしておく必要があると考えられる。

2. ループリックの活用意義

教員の意見において、教員自身もループリックをどれだけ意識して活用するか教員自身の指導方法を顧みるものがあつた。ループリックは学習評価のツールとしてだけでなく、アクティブラーニングのツールであり¹³⁾、学習効果の促進が期待される。学生の自己研鑽効果を高めるためには、教員は文言や目標到達するために求められているものを学生が理解できているか確認し、随時指導を行うことが必要である。また、学生が学修課題への取組みにつながられていたか評価し、継続的にループリックの修正を行うことが重要であると考えられる。

ループリックの作成・活用過程では、教育の内容や教育方法の見直しが可能であり、ループリックが評価のためのツールとしての意味だけではなく、明確に示された評価基準やその活用を通じて学生や教員、実習指導者が認識を共有できることは教育的な意義があると言える。さらに経験の異なる教員が評価や学生の学習効果のためにループリックの改善について継続的に検討を行うことは、学生と教員の相互理解を深め、より効果的なループリックの運用とループリックの向上に繋がる¹⁴⁾ことから、継続的な検討の意義があると考えられる。

3. 研究の限界

今回は作成したループリックに対する実習担当教員からの意見を分析したが、ループリックの内容について学生対象の調査や評価結果のデータに基づいた分析は行っていない。ループリックの信頼性や理解度を高め、学生による実習でのパフォーマンスや教員の指導をより効果的なものにするためにも、更なる調査・分析が必要である。

VI. 結語

今回、看護学科2年次の基礎看護実習Ⅱで使用したループリックに対する教員の意見を分析した。その結果、ループリックの表現の不足、目標の設定、評価の尺度、学生の指導方法について等様々な意見があり、ループリック導入にあたり期待された成績評価の公平性と客観性への影響と、ループリックの活用を意識した指導状況が課題となった。これらのことから、到達目標や評価基準に対して共通認識を持てるよう、ループリックに関する事前オリエンテーションの内容を検討すること、また、学生の自己研鑽効果を高めるために、教員は学生のループリックの理解度や学修課題への取組み状況を確認し、指導に活かすことが重要であると考えられる。今後、学生からの意見やループリックの活用による学習効果の分析を踏まえてループリックの継続的な改善を行っていききたい。

利益相反

本研究における利益相反は存在しない。

資料1 2019年度 基礎看護実習Ⅱ 評価表 (部分的に抜粋・形式を修正)

評価項目	評価基準 (数字に○をつける)				
	5	4	3	2	1
	5 一人でできた	4 少しの指導があればできた	3 指導があればできた	2 指導があっても少ししかできなかった	1 指導があってもできなかった
1. 看護の対象となる人と意図的にコミュニケーションをとることができる					
1) 目的をもってコミュニケーションをとることができる	5	4	3	2	1
2) その人にあった方法でコミュニケーションをとることができる	5	4	3	2	1
5. 援助計画に沿って、その人の反応をみながら実施することができる					
1) 援助の目的を達成することができる	5	4	3	2	1
2) 援助前・中・後に、その人を観察することができる	5	4	3	2	1

引用文献

- 1) 伊藤あゆみ, 糸島陽子, 中川美和, 他: ルーブリックを活用したエンドオブライフケア実習評価と課題—学生評価と教員評価からの検討. 人間看護学研究, 14: 41-45, 2016.
- 2) 山田香, 遠藤和子: 成人看護実習(慢性期)におけるルーブリック評価の作用と試用. 山形保健医療研究, 20: 41-52, 2017.
- 3) 高桑優子, 笹野幸春, 山本哲子, 他: 基礎看護実習Ⅱにおけるルーブリック評価の試み. 順天堂保健看護研究, 8: 96-105, 2020.
- 4) 西岡加名恵: 看護教育におけるパフォーマンス評価—あじさい看護福祉専門学校における実践. 教育方法の探究, 19: 1-10, 2016.
- 5) 文部科学省: 中央教育審議会 総則・評価特別部会(第4回) 配付資料「学習評価に関する資料」. 平成28年.
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/061/siryo/_icsFiles/afieldfile/2016/02/01/1366444_6_2.pdf (2021.7.21アクセス)
- 6) 沖裕貴: 大学におけるルーブリック評価導入の実際—公平で客観的かつ厳格な成績評価を目指して—. 立命館高等教育研究, 14: 71-90, 2014.
- 7) 文部科学省, 中央教育審議会, 第82回総会. 新たな未来を築くための大学教育の質的転換にむけて—生涯学び続け, 主体的に考える力を育成する大学へ— (答申). 平成24年
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_1.pdf (2021.8.25アクセス)
- 8) 岩村純子, 井上加奈子, 岩瀬裕子, 他: 1年次の基礎看護実習における ICE モデルを用いたルーブリックの検討, 熊本保健科学大学研究誌, 18: 91-101, 2021.
- 9) 森田敏子, 上田伊佐子編. 看護教育に活かすルーブリック評価実践ガイド, メジカルフレンド社, 2018.
- 10) 蒔田寛子, 大島弓子, 大野裕実, 他: 妥当性のある看護実習評価の在り方, 豊橋創造大学紀要, 23: 75-85, 2019.
- 11) 前掲書10) pp.75-85.
- 12) 久野暢子, 長鶴美佐子, 川村道子, 他: 「卒後研究ルーブリック評価」作成の試み, 宮崎県立
大学研究紀要20 (1): 63~73, 2020.
13) 前掲書2) pp.41-52.
- 14) 小宮山陽子, 青木雅子, 櫻田章子, 他: 看護基礎教育におけるルーブリックの推移と課題に関する文献調査, 東京女子医大看会誌, 14 (1): 15-22, 2019.
(令和4年1月24日受理)

Analysis of teachers' opinions after the use of rubrics for 2nd year basic nursing practicum.

Ikuko TOKUNAGA, Mayumi HARAGUCHI, Junko IWAMURA,
Kanao INOUE, Hiromi ARAO

Abstract

The evaluation method was changed to performance evaluation using a new rubric in Basic Nursing Practicum II in 2020, at University A. The purpose of this report is to analyze the opinions of the teachers in charge of instruction about the rubric used in that Practicum and to examine the issues. A questionnaire was sent to 17 teachers who agreed to cooperate in the research, asking them to give their opinions about the rubric anonymously and freely, and 13 teachers responded. The results were classified into two categories: (1) "consistency of evaluation" and (2) "learning effect", and each category had subcategories. In category (1) had three subcategories, "lack of expression" "difference due to interpretation of evaluation criteria" and "proposal of expression", and in category (2) had four subcategories, "item setting necessary for understanding the pathological condition and prognosis" "detailed items for feedback" "promoting students to utilize rubrics" and "setting items for dignity and respect for human rights". It is necessary to improve the reliability and consistency of the modifying rubrics that to use for next students taking practicum. Furthermore, in considering the effective use of rubrics in practicum, it is important to set up an orientation before the practicum so that all students, teachers, and clinical instructors involved in the practicum have a common understanding of the evaluation criteria and standards.